

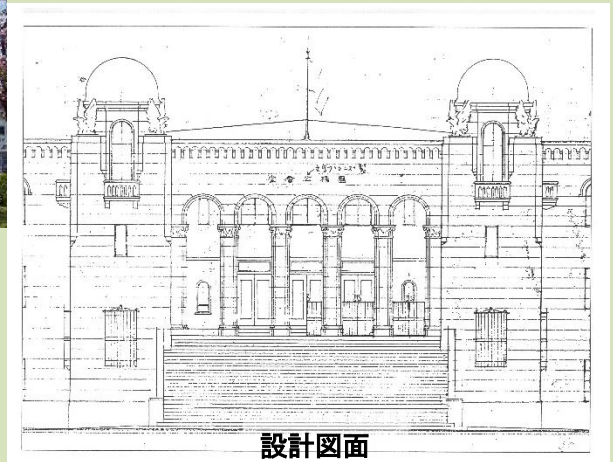
豊橋市公会堂（とよはししこうかいどう）：建築物
 1 棟/八町通二丁目 22/鉄筋コンクリート 3 階建、建築面積 1,202 m²/昭和 6 年/豊橋市

豊橋市公会堂は、大正末期から豊橋市民に持ち上がっていた公会堂建設の要望の中で、市制 25 周年にあたる昭和 6 年(1931) 8 月、昭和天皇即位大典の記念事業として建てられました。

設計は、長くソウル、大連で設計活動を行っていた浜松出身の中村與資平（なかむらよしへい）。彼は、浜松や静岡でも公会堂建築を手掛けましたが、現存する公会堂は豊橋市公会堂だけとなっています。施工は松村組で、総工費は当時の金額で約 17 万円でした。



全景



設計図面

建物外部のデザインは、2 階までの大階段、2 階分の高さがある列柱、その上のロマnescク風の連続アーチ、ロンバルディアバンドと威圧感のあるスケールの大きなものになっています。さらに両脇の階段棟の上にはモザイクタイルによる幾何学的な装飾の半球ドームとその周りを 4 羽の鷲がオリェント風の中にも威厳のある趣を醸し出しています。



大階段と列柱

正面入口の意匠については、アメリカのサン・アントニオ市公会堂との類似性が指摘され、また大階段については別府市の公会堂を参考にしたとされています。



玄関上の装飾

建物内部については、大階段を上った 2 階がメインフロアとなっており、玄関、ロビー、大ホールと続きます。3 階から屋上へ登る階段は、螺旋階段と艶やかな手すり特徴です。また、3 階にはホール 2 階席や貴賓室などが配されています。なお当初の席数は 1,005 席でしたが、舞台の改修等により 601 席となっています。1 階の用途は幾度か変更され、当初は食堂なども備えていたようですが、現在は機械室や会議室となっています。